

## 成果の説明書

(氏名) 渡部瑞希	(学部)
<p>1 重要事項</p> <p><b>研究：書籍</b></p> <p>①渡部瑞希(2026)「13章 ネット社会——インターネットの進化がもたらす可能性と問題」『現代世界を読み解く観光人類学のススメ』、pp88-92 ナカニシヤ出版</p> <p>②渡部瑞希(2026)「序章 なぜ、デジタル時代の妖怪学なのか」『デジタル時代の妖怪学』笠間書院、pp.7-19.</p> <p>③渡部瑞希(2026)「1章 妖怪の实在論—「目見は見えないけれども、いる」の正体を探る」『デジタル時代の妖怪学』、笠間書院、pp.23-38.</p> <p>④渡部瑞希(2026)「2章 異界の想像力」『デジタル時代の妖怪学』笠間書院、pp.39-58</p> <p>⑤渡部瑞希(2026)「3章 デジタル時代の呪術的機能」『デジタル時代の妖怪学』笠間書院、pp59-77.</p> <p>⑥渡部瑞希(2026)「4章 妖怪アニメーション論」『デジタル時代の妖怪学』笠間書院、pp.78-96.</p> <p>⑦渡部瑞希(2026)「6章 鬼太郎シリーズから見る人間と妖怪の変遷」『デジタル時代の妖怪学』笠間書院、pp.131-149.</p> <p><b>研究：論文</b></p> <p>①渡部瑞希(2025)「観光地における「余暇的な働き方」の可能性：ネパールにおける中国人ホストと代講観光客の事例から」立命館大学人文科学研究所紀要 146, pp. 39-60.</p> <p><b>その他</b></p> <p>①観光学会・研究大会（琉球大学、2025年7月6日）大学院生育成セミナーでコメンテーターを務めた</p> <p>②観光学会・集会委員として学会の運営に携わった</p> <p><b>教育</b></p> <p>①担当科目：学部（基礎演習、文化人類学、初年次ゼミ、アジアの文化と観光、ツアープランニング論）を担当した。卒業論文 5期生 11名、修士論文 2期生 1名が論文を提出した。</p> <p>②ゼミ生 9名（2年生）と共に、国内（東京）、海外（ポーランド）でフィールドワークを実施した。</p> <p><b>社会貢献活動</b></p> <p>①「ツアープランニング論」の科目において、伊香保温泉の松本楼、渋川市役所環境保全課、旅館 AI 推進企業と連携し、伊香保温泉におけるインバウンドと SDGs の役割を議論した。</p> <p>②高崎ラジオに出演（高崎経済大学の教員の研究活動紹介の番組にて）</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p><b>共同研究</b></p> <p>①科研基盤(B)「観光における不確実性とリスク」の分担研究者として活動</p> <p>②科研基盤(B)「地域の自給的生業の文化遺産化による持続可能な観光:フランス世界遺産を例に」の分担研究者として活動</p> <p><b>委員会</b></p> <p>①観光学会・集会員</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

観光に関する単著を出版する。また、学会誌や紀要の論文を3本は投稿する。加えて、次年度は学会発表や公開講座などの口頭発表を積極的に行っていきたい。また、群馬のツーリズムに関する社会貢献活動として何ができるかを模索し、自身の研究活動につなげていく。